

■ ユダヤ人の葬儀

人が死んだ時、数日の内にその遺族を訪ねて慰めるのは、ユダヤ人にとって当然のような礼儀でした。死んだ人を埋葬した後の最初の一週間は、深い哀悼の期間として設けられていました。遺族は家の床に座って、訪ねて来た知人の慰めを受けながら哀悼の期間を過ごしていました。

その次の3週間は身を飾らないで過ごし、一年間は世の快樂を避けていたそうです。

■ メッセージのポイント

ラザロが病気になり、妹たちはイエス様にその状況を伝えました。イエス様には癒しの力とラザロへの愛があったからです。しかし、イエス様がラザロのところに来られたのは、もう彼が死んで4日が過ぎた時でした。そのために、妹のマルタはイエス様を誤解しています。

(1) マルタの誤解1—自分の経験や考えに閉じ込められたイエス様の力

(2) マルタの誤解2—知識として漠然と知っているよみがえり

(3) イエス様ご自身がよみがえりであり、いのちなのです。